

三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ

国鉄の全面的再編攻撃にむけた大國化-侵略体制構築

職場討議
シリーズ
No. 6

「経営改善計画」の反動性について(2)

軍事大國化-侵略体制づくり狙った大攻撃

「経営改善計画」の反動性の**オ三**は、国鉄の全面的再編を通して日本帝国主義の危機と連動した国鉄赤字の危機を突破し、軍事大國化-侵略戦争体制に組み込まれようとする極めて反動的な攻撃であるということです。

国鉄は、その創設以来、国家政策の下で建設・経営され、国鉄労働者の低賃金と劣悪な労働条件と大衆収奪とによって、独占資本に膨大な利益を保障し、軍事輸送をはじめ国策遂行の中心的役割を一貫して担ってきました。

そして戦後は、経者政策の一環として新幹線・新線建設など国鉄に対する巨額な設備投資が行われ、きました。この設備投資資金は、市中銀行をはじめ大金融資本からの短期・長期の借入金及び鉄道債によってまかなわれていたのです。こうして戦後の高度経済成長の一翼を担ってきた国鉄に対する設備投資政策は、逆に、年々増加する膨大な赤字となり、累積されてきているのです。従って今日の国鉄赤字

- ① 国鉄危機が、
- ② 独立採算制の下で、
- ③ 国家財政からの補助金を低く抑え、
- ④ 補助金どころか、逆に設備投資資金として膨大な借入金とそれに対する巨額の支払い利子、

にある事は、もはや明らかです。国鉄赤字の根源が、今日、政府・自民党・国鉄当局が大宣伝しているような「働かない国鉄労働者」「多すぎる国鉄職員」などではなく、まさに、作られた国鉄赤字であるということです。つまり、国鉄危機は「独占奉仕のための国鉄経営

より一層の大衆収奪を狙う『経営改善計画』の反動性の**オ四**は、運賃値上げ・線区別運賃制導入・ローカル線廃止などの大衆収奪をより一層強化しようとしていることにあります。国鉄当局は、今年四月以降、平均七%の運賃値上げを実施しようとしています。一九七七年以降、五年連続の大巾運賃値上げ―そしてそれが乗客の、国鉄離れをも促進する悪循環におち

しそのものから生み出されたものです。日本帝国主義は、今日、戦後高度経済成長の完全な行づまりと赤字国債の累積による国家財政の危機とに直面し、しかし全く関係なく軍事大國化-軍事費の増強だけは突出するという侵略と反動政策の遂行によって突破しようとしています。

「経営改善計画」は、まさに、国家財政の危機と直結した国鉄危機を、「国鉄再建」の名のもとに、国鉄労働運動の解体・破壊をもつて、国鉄を侵略体制に組み込まれようとする反動的な攻撃といわなければなりません。

入っています。しかも全国一律運賃制の廃止、地方ローカル線に対する、特別割増運賃制の導入、通勤通学定期の割引率の引き下げ、さらに線区別運賃-料金制を導入しようとしています。こうして、「赤字-国鉄再建」の名の下に、地方ローカル線の廃止攻撃ともあわせて、より徹底した大衆収奪を狙っているのです。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよノ

(続く)